



国土交通省では5月1日～5月31日を「水防月間」と定めていますが、大石田出張所は「水防月間」にあわせて、下記の取り組みを実施しました。



4/27・5/9 堤防モニタリング



本格的な出水期(川が増水しやすい時期)を前に、堤防が安全な機能を有しているかどうかを確認するための調査を行いました。堤防に損傷があると、大雨による洪水時に大きな被害につながるおそれがあるため、堤防天端舗装にひび割れはないか、法面(堤防の斜面の部分)に亀裂が入っていないかなど、大石田出張所管内の堤防を全て歩いて点検しました。特に5/9は前日までの出水の影響がないか注意深く点検していましたが、堤防への被害は確認されませんでした。



←貫入棒を使い、堤防の状態を確認していきます。貫入棒が堤防に刺さる深さを測り、盛土の状態(地盤の緩み)などを調査しました。

貫入棒

護岸にひび割れがないか確認中。→



←舗装の損傷箇所を確認。へこみ部分を測定し、補修が必要か判断します。



4/28

内水排除等作業訓練 出水時状況把握訓練



実際に排水ポンプ車を出動させての訓練です。



4月28日(金)大石田第五排水樋管において※内水被害を想定した内水排除等作業訓練を行いました。はん濫注意水位を上回る規模の増水時や大きな規模の地震が発生した際には、維持工事業者が管内を巡回し、現地の状況を河川巡視システムで出張所へ報告することとなっています。当日は、実際に排水ポンプ車を出動させ、排水の手順を確認しました。また、同日に大石田出張所では出水時等状況把握訓練を行い、「河川巡視・点検報告システム」の操作方法を確認するため訓練を実施しました。
※堤防を挟んで私たちが住んでいる場所を「堤内地」といいますが、堤内地にある水のことを「内水」といいます。洪水が起きて堤内地の水が増え、家屋や農地等が水に浸かってしまうことを「内水被害」といいます。



維持管理業者より水防活動状況の報告を受けています。

5/12 洪水対応演習

国土交通省東北地方整備局では、毎年、本格的な出水期(川が増水しやすい時期)を前に、大規模な出水・堤防決壊等の重大災害を想定した「洪水対応演習」を実施しています。当出張所では、大石田水位観測所で、はん濫危険水位(16.90㍍)を超え、計画高水位(17.90㍍)まで水位が上がるという想定のもと、新庄河川事務所と出張所をTV会議でつないで情報共有はかり、本番さながらの訓練を行いました。
本訓練を生かし、実際に災害が起きたときにも円滑に対応できるようにします!

もしもの災害を想定し、各種訓練や点検を行い、地域の安全な暮らしを守ります!

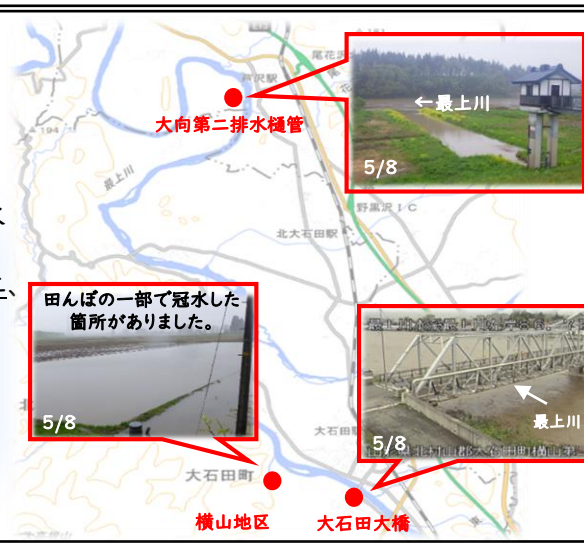


最上川の増水

5/7(日)~8(月)にかけての大雨の影響で、大石田観測所は、水防団待機水位(12.50メートル)を超え5/8(月)13:51には、はん濫注意水位13.80メートルに迫る**13.61メートル**まで水位が上昇しました。そのため、もしもに備え大向第二、横山第四、○芦沢第一、大石田第二、○大石田第三、大石田第五、豊田第二の水門等水位観測員さんに出動を依頼し、樋管のゲート操作が必要な箇所については、あわせて操作をお願いしました。

※○印はゲート操作あり

出動していただいた水門等水位観測員の皆さん、長時間の対応お疲れ様でした。



4月~9月は出水期(川が増水しやすい時期)です。

もしもの水害に備えましょう!

~大雨や洪水から身を守るために~



①雨の降り方を
知ろう!

雨の強さと降り方

(出典: 気象庁)

10ミリ~20ミリ	20ミリ~30ミリ	30ミリ~50ミリ	50ミリ~80ミリ	80ミリ以上
やや強い雨 ザーザーと降る	強い雨 どしゃ降り	激しい雨 バケツをひっくり返した ように降る	非常に激しい雨 滝のように降り続ける (ゴブーと降り続ける)	猛烈な雨 鳥が飛ぶような圧迫感がある。恐怖を感じる。

雨の強さと降り方によって水害が発生する危険性が変わります。雨の降り方の違いを知ること、いざという時の判断に役立ちます。

③避難行動を
確認しよう!

②雨の状況を
知ろう!



国土交通省 川の防災情報

パソコン・スマートフォンから
<https://www.river.go.jp/>

▲身近な「雨の状況」「川の水位情報」「行政からの避難情報」などをリアルタイムでお知らせするウェブサイトです。河川沿いに設置しているCCTV画像により、川に近づかなくても状況を知ることができます。



警戒レベル4になったら「全員避難」です!
危険な場所(災害が想定される区域)にいる方は、各自治体から発令されている避難情報に従い、直ちに適切な避難行動をとってください。

洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)の色に応じた住民等の行動の例

色が持つ意味	状況	住民等の行動の例※1-2	市町村の対応	水位など
災害切迫 (4段階中最も危険な状態に陥る可能性が高い状況)	重大な洪水災害が切迫。洪水災害がすでに発生している可能性が高い状況。	(立退き避難ががらって危険な場合) 命の危険 直ちに身の安全を確保!	緊急安全確保	氾濫の発生(5相当)
<警戒レベル4までに必ず避難!>				
危険 (3段階中最も危険な状態に陥る可能性が高い状況)	水位周知河川・その他河川がさらに増水し、今後氾濫し、重大な洪水災害が発生する可能性が高い状況。	水位が一定の水位を超えている場合には、安全な場所へ避難する。※3	避難指示	氾濫危険水位(4相当)
警戒 (2段階中最も危険な状態に陥る可能性が高い状況)	洪水災害への警戒が必要な状況。	水位が一定の水位を超えている場合には、高齢者等は安全な場所へ避難する。※4 高齢者等以外の方も、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自ら避難の判断をする。	高齢者等避難	氾濫警戒水位(3相当)
注意 (1段階中最も危険な状態に陥る可能性が高い状況)	洪水災害への注意が必要な状況。	ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	氾濫注意水位(2相当)
今後の情報等に留意	—	—	—	—

※1 洪水キキクル(洪水警報)は、自治体から避難指示が発令された場合や河川管理者から氾濫危険水位が発令された場合は、避難行動をとること。
※2 洪水キキクル(洪水警報)は、洪水キキクル(洪水警報)は、河川管理者と気象庁が共同で発表している指定河川(洪水予報等)を指し、避難情報が発令されるため、それらに留意し、避難行動をとること。
※3 洪水キキクル(洪水警報)は、水位周知河川(水位周知河川)以外に水位を監視している河川(水位周知河川)において、現時点で危険な場所へ避難する。
※4 洪水キキクル(洪水警報)は、水位周知河川(水位周知河川)以外に水位を監視している河川(水位周知河川)において、現時点で危険な場所へ避難する。
※5 災害発生に備えて、避難行動を促すための情報(警戒レベル)は、緊急安全確保が発令される場合を除き、警戒レベル5相当情報が発令されたら、必ず緊急安全確保が発令されるわけではない。

※洪水時に必要な情報は、時々刻々と変化します。「川の防災情報」や気象庁のホームページ、NHK総合テレビのデータ放送(dボタン)で最新の情報を集めましょう。

これから本格的な出水シーズンに入ります。事前の備えをしましょう。

【発行】
国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所 大石田出張所
(担当: 本間・浅沼)
〒999-4113 大石田町大字今宿字鷺の原466-2
(TEL)0237-35-2024 (FAX)0237-35-2354
※「川通信 おおいしだ」をご覧になってのご感想やご意見をお寄せ下さい。
※工事現場や河川管理施設をご覧になりたい方は、大石田出張所までご連絡ください。



ホームページもご覧ください!
<http://www.thr.milt.go.jp/shinjyou>

新庄河川 検索

